

音楽には計り知れない力がある

—子どもたちに“夢と目標とチャレンジ精神”を。暮らしのなかに音楽を



特定非営利活動法人イエロー・エンジェル理事長
宗次ホール代表、カレーハウス CoCo 壱番屋創業者
(株式会社壱番屋 創業者特別顧問)

宗次 徳二 氏

業績絶好調のさなか、53歳で会社経営を後継者にゆだねて一線から退き、その潔い事業承継が話題となったカレーハウスCoCo壱番屋創業者の宗次徳二さん。引退翌年の2003年にはNPO法人イエロー・エンジェルを立ち上げ、企業時代と変わらぬ情熱で、音楽やスポーツ、福祉、起業、ボランティアなどの分野で、夢や目標を持ち続け努力する人々を応援している。07年には当協会主催の「まちかどのフィランソロピスト賞」を受賞。

今回は、宗次さんがとりわけ情熱を注ぐクラシック音楽普及の取り組みや、楽器支援活動について伺いに、名古屋の中心地・栄にあるクラシック音楽専用コンサートホール「宗次ホール」を訪ねた。

「一時預かりのお金を社会にお返し」してホール誕生

—今日もランチタイムコンサートにたくさんのお客様がおいでですね。宗次ホールのテーマ「くらしの中にクラシック」、響きもいいですね。CoCo壱番屋〓ここがいちばんやに匹敵します(笑)

宗次 ネーミングはよく考えますね。講演活動や出版を行う「ライトアップ」という会社をつくった時も、多くの方の人生が充実して右肩上がりになるように、自分自身にも光を当てていただくと願って「Right」と「Light」両方の「ライトアップ」にしました。ホールの自主公演は年間400回ほど行っています。

—年400回のコンサート！それはすごいですね。

宗次 クラシック音楽のファンを増やしたい、そして才能あふれる若い音楽家たちに演奏の機会を少しでも多く提供したいという2つの思いでやっているのです。だから回数が必要なんです。音楽を日常生活のなかの楽しみにしていきたいんです。2015年の3月でオープンから丸8年になりますが、ホールのファンもだいたい増えてきました。地元の方が多くですが、県外からもお越しになります。無料でご登録いただける「宗次フレンズ」の会員は7000名になりました。



宗次ホール外観／内部（客席数 310 席）



―回数が大事！目標を達成するための努力。経営にも通じますね。ところで、そもそも個人でクラシック音楽ホールをつくられたきっかけは？

宗次 東証の一部に上場する時に、株を放出したことでお金が入金された通帳を家内と2人で見ても、これは私たちのものではなくて、「一時預かりのお金。社会にお返ししよう」と決めました。その一つが音楽ホールになりました。

引退してNPOをつくった直後、クラシック音楽の普及活動ということで、影響力のある人、例えば大学

教授や社長さんを招いてサロンコンサートをやるうと考えました。それがNPO

の最初の事業です。岐阜の自宅で、3年間で25回やりましたが、利便性

から名古屋でできないかと考えていたら、偶然にもタイミングよく小さな土地が買えたんです。最初は75坪だったのですが、交渉の結果、その一角地の250坪を購入できて、クラシック専用のホールをつくることになりました。上質な音、残響時間にはとことんこだわって、結局2階から5階まで吹き抜けで天井高が16メートルのホールになりました。

―音楽の原点は、高校時代にテレビで聴いたクラシックでしたね。

宗次 高校1年の頃、家が貧しかったので友人の家の豆腐屋さんでアルバイトをさせてもらっていて、ほしかったテープレコーダーを中

古で手に入れました。それで母親が同僚から5000円で譲ってもらったテレビで見た「N響アワー」

を録音してみたんです。毎朝、録音したメンデルスゾーンのバイオリンコンチエルトを聴き、世の中にこんな素晴らしい曲があるんだと、心に沁み入ってきました。それを聴いてから学校に出かけるようになったのですが、まさに音楽の力といいますか、貧乏生活のなかで癒され、元気が出ました。

その後20歳の時、初めて買ったのがヴィバルディのバイオリン協奏曲集「四季」のレコード盤でした。

転職した会社で出会った、後に家内となる直美の20歳の誕生日プレゼントに、大事にしていたそのレコードを贈りました。

―それからずっと音楽、そしてずっと奥様と二人三脚なのです。

宗次 いえ、音楽はストップ。会社を経営しているときは、それはもう仕事、仕事でした。経営者時代はそれどころじゃないと、完全に遮断しました。



コンサートに訪れるお客様を案内する宗次さん



集めたCDは宗次ホールで貸し出している



—え!? 音楽に蓋をしていたのですか?

宗次 お客さんや従業員を思って、よそ見をせず経営に身を捧げるといふ感じで、自分のためというものがなかったのです。私のなかでは音楽を聴くことさえも、経営においてはある意味よそ見ですから遮断してました。企業経営というのはそのくらい真剣なものですから。でも、身を捧げ続けると事業もまあまあうまくいって、その何分の一かは人のためにも大切なお金を使うことができず。自分の欲求を満たすだけに終

わってしまうこととの違いは、大きいんじゃないでしょうか。

—耳の痛い人が多そうですね!では音楽との再会は?

宗次 音楽をまたよく聴くようになったのは、2002年5月31日に吉番屋を引退した後です。引退の少し前に、飛行機の機内放送でパバロッチイが歌うオペラ「連隊の娘」を聴いて、何十年かぶりにクラシック音楽への思いがよみがえったんですね。それで約1万8300タイトルが掲載されている「クラシック音楽CD総カタログ」というこの本を買って、山野楽器にほしいCD

を全部揃えてもらいました。

(秘書の中村さん) 「大人買い事件」です。クラシックに興味があるなんて私は知りませんでしたから、大量のCDが請求書と送られてきてびっくりしました。先方も訝しがって電話がかかってきましたよ(笑)

—それはびっくりしたでしょうね(笑)。てっきり、音楽は宗次さんの人生にずっと寄り添っていたと思っていました。でも、心に沁みるものだからこそ、自分を律して遠ざけていらしたのかもしれないね。

宗次 移動中に聞くのはすべて会議テープ。あとはやっぱり経営がおもしろかったんでしょうね。一所懸命やれば目標は達成するし、その繰り返してね。

—宗次さんにとって「音楽」とは?と聞かれたら、人とは何か違う答えがあるのでしょうか。

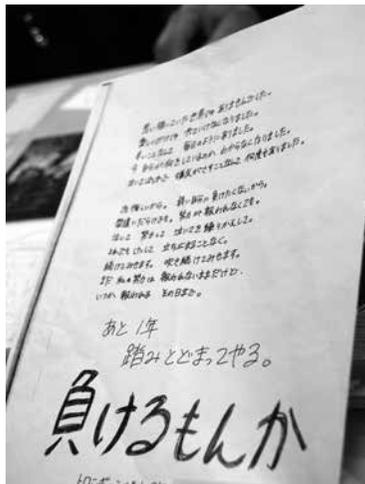
宗次 うーん、そんな風に考えたこともないけれども。音楽は優しい気

持ちにしてくれるし、人に優しくもなれます。元気も出ます。いいものはいいですよ、ストレートに。身体を使って手拍子打つてという他のジャンルの音楽も身体中元気になってもちろんいいんですが、やさしさにあふれ、心を豊かにしてくれるということでは、やっぱりクラシックが一番かなと思います。毎回クラシックでなくていいから、10回のうち、1回か2回はクラシックを聴いてほしいですね。

足を運んでクラシックを聴くような人に悪い人は絶対にいませんものね。罪を犯すような、人をだましてり傷つけたりするような人は、シューベルトとかカルテットなんて聴きに来ないでしょう。まあ、変わった人が多いですけどもね(笑)。それを嫁さんに言うと、「あなたが一番変わっている」といわれますが(笑)

広がる「青少年に楽器を贈る運動」

—人と地域への「優しさと思いやり」を活動の柱に、さまざまなこと



子どもたちの思いが書き綴られた作文が多数寄せられる

に頑張っている人、困っている人たちをへいろいろ援助するNPOイェロー・エンジェルのご活動も、内容がどんどん増えていきますね。

宗次 じわじわですが、だんだん多岐にわたって。これだけ厳しい世の中になって、困っている人がいっぱいいるから、皆さん大変な思いでやっけないとね。人が優しくしてくれる人にも優しくしてあげられます。そういう人が増えれば、社会も多少はよくなっていくと思っています。

—2008年に始められた「青少年

に楽器を贈る運動」も、第6回の14年は117校に259点を寄贈されました。本棚に並んでいる学校名が書かれたファイルは贈呈先ですか？

宗次 2年前から贈呈先を学校単位にしているのですが、非常に多くの学校から支援の申し込みがあります。このファイルは各学校からのアンケートです。教育予算も減って、多くの学校は減価償却が既に終わってしまったような古い楽器を新調できなくて困っているんです。2014年度は前年の2倍の学校に寄贈しましたが、それでも希望する学校の三分の一なのです。こんな風

に「ほんとうに、ほんとうに、ほんとうにありがとうございます。このご恩は一生忘れません」なんて書いてくれる小学生もいるんですよ。先生に言われたわけではないと思うんですよね。

—うれしかったんでしょね。新しい楽器だと奏でる音がまったく違うんだと思いますよ。

宗次 アンケートと一緒に送ってくださった学校の作文集で目に留まったこの「負けるもんか」という作文を見て、全国の先生方にできるだけ多くの作文を書いてくださいとお願したら、4300くらい集まったんです。ひと通り拝見しましたが、金銀銅とつけてきちんと評価しようと思ったけれども、それが無理なくらい集まりました。こういう子どもたちの言葉を本にまとめたんですよ。

根底にあるのは感謝の気持ち

—早起きは続けられているのですか？

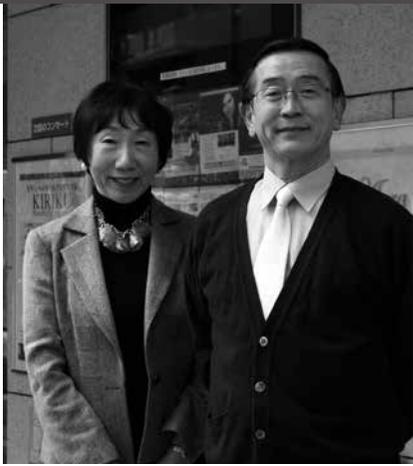
宗次 会社時代と変わりません。朝

3時55分起きを貫いています。4時3〜4分には上の階から降りてきてこのホール事務所に出勤。朝の清掃活動も続けています。地下鉄の出口をあがった栄交差点からホールにいたる東新町交差点までの広小路通り413メートルを1時間半かけて掃除して、ゴミ出します。

—花も植えておられますね。

宗次 黄色いパンジーを7200鉢。250リットルの腐葉土を120袋使って、9センチのポットから12センチに植え替えて花を並べます。パンジーは不思議な花ですよ。今日の名古屋は大雪で、20センチも雪をかぶってますけれど、可憐な花たちは、霜が降りても雪が降ってもちゃんと咲いてくれるんです。夏場は黄色のハイビスカス2200鉢に植え替えます。ほかに、何か黄色い葉っぱの植物ってないかなと思っていますよ(笑)

—はあく！社会に役に立っているという実感はどういう時に持てるのでしょうか。



宗次 それはもう、その時々ですよ。会社時代は、社員さんがどんどん独立して夢が達成できたとき。増益で税金をたくさん納められたとき。創業からほぼ2年後の1979年暮れに、4軒目の店を出す直前に信金さんから100万円借りて、70万円は給料袋に入れて出して、10万円ずつ計20万円を社会福祉協議会に匿名寄付しました。それが私の社会貢献の最初、原点ですね。花を育てたり、早起きと一緒に、「いいこと」はだんだん、だんだんと膨らんで発展していくんですよ。

—まだ創業したてで軌道にのる前、自転車操作の時にそういうことをなさったというのがすごいですよね。信金さんは20万が寄付になったこと

は知らないでしょう(笑)。社会貢献というの、功成り名を遂げてなさる方もあれば、若い時に貢献活動をやることで自分の支えにしている方もいますね。

宗次 根底にあるのはやっぱり「感謝」ですよ。健康で、こうして経営、商いさせていたでいることへの感謝。多くの人たちに支えられながら経営する喜び。自分のことより、周りの人に喜ばれたい、人に喜ばれると幸せです。私の場合は何かを「こうしよう」と思ってたってきたわけではなくて、その時々で夢中にやってきて、振り返ってみればああこうなっちゃったぞと、そんな思いが強いですよ。「すごいいね」といわれても「いやあ成り行きなんです」としか言いようがない。先のことなんかよりも、まず今を一所懸命やってきました。

—右肩上がりのなか突然引退されましたが、経営に後ろ髪をひかれることはなかったのですか？

宗次 それは一切なかったです。後

継者がそれだけすばらしかった。中途半端に役員として残って、役員会議なんかに出てお互い嫌な思いすることもわかってるので、役員は返上しました。執着しないのが一番です。辞めたその日は、次に何をしようかなんて何にも考えていませんでした。すごいですねとよく言われますけれど、それだけもう悔いがないほど、最後の最後までCOCO壱番屋をやって。それでやめた直後に「さあ、今度は社会貢献だ」と。

—この後も、その時その場で必要とされることや、若い人たちの支援をしていけるのでしょうか？

宗次 そうですね。生きている限りはやりますからね。

—感動と厳しさを同時にいただきました。今を一生懸命生きる、ですね。メンデルスゾーンの調べを全身で受け止めた宗次少年の心を、今、全身で受け止めたいと思います。

これからもイエローエンジェル(いるる援助)ですね(笑)。ますま

PROFILE 宗次 徳二(むねつぐ・とくじ)

1948年石川県生まれ。愛知県立小牧高校卒業後、八洲開発株式会社を経て、70年に大和ハウス工業株式会社に入社。73年に不動産仲介業を経て、74年に喫茶店「バックス」を開業。78年にカレーハウスCoCo壱番屋を創業。82年に株式会社壱番屋を設立、代表取締役役に就任。98年同社代表取締役会長、2002年創業者特別顧問に就任。03年NPO法人イエロー・エンジェル設立。07年にクラシック音楽専用「宗次ホール」をオープン。13年NPO法人クラシック・ファン・クラブ設立。07年「第10回まちかどのフィランソピスト賞」、12年「名古屋芸術奨励賞」。

すのご活躍をお祈りしています。本日はありがとうございました。

インタビュール

公益社団法人日本フィランソピイ協会

理事長 高橋陽子

「2014年12月18日 宗次ホールにて」

■ 「青少年に楽器を贈る運動」 応募要項

※新規募集の詳細はイエロー・エンジェルのウェブサイトをご確認ください

対象年齢	小学5年生(11歳)以上 高校3年生(18歳)以下の所属する団体
条 件	楽器を購入できない諸事情(経済的等)のある団体
申込方法	専用アンケート用紙に記入の上、必要なものを同封して送付
締 切	最新情報はウェブサイトに掲載
審査方法	アンケート用紙への回答に沿って、各学校を訪問し、使用楽器の状態、必要点数、部活の熱心度、校風などをヒアリングして審査
贈呈式	審査に合格した方・団体へは夏休み(8月)に宗次ホールで行う贈呈式にて、審査で決定した楽器を贈呈
贈呈実績	・2014年度 第6回：小・中・高の吹奏楽部 117校へ 259点(総額約1億円相当)を寄贈。うち、68校には楽器修理代 合計770万円を寄付 ・2013年度 第5回：47校に5000万円相当を寄贈
お問合せ先	名古屋市中区栄四丁目5番14号 宗次ホール内 NPO法人 イエロー・エンジェル内 宗次エンジェル基金 “青少年に楽器を贈る運動”本部 TEL：052-262-5656 FAX：052-262-5659 E-mail：info@y-angel.jp URL：http://www.y-angel.jp



助け合う社会を目指して宗次ホールに設置している「チャリティーボトル」。さまざまな団体への寄付を募る



「青少年に楽器を贈る運動」贈呈式



『ビッグイシュー』の販売も支援